

Contents

新年大交歓会／臨時総会	1
令和元年度 建築士試験 合格祝賀見学会	2
連載一奈良県景観 デザイン賞2018— 建築賞・天川の山荘	3
第1回リノベーション スクール@大和郡山	4
公共建築の木造化への 取り組み	5
まちづくり最前線レポート／ 編集後記	6
お知らせ 新入会員他	7

表紙の人

「表紙の人」は、大和郡山市のコーヒーショップの店主 森 和也さんです。

大和郡山市の中心市街地は、郡山城址を含む旧城下町です。バブル崩壊後より空き地、空き家が目立ち始めていますが、町家や昭和の時代のある建物も残る、近鉄とJRの両方が利用できる交通アクセス良好な地域です。

そんな旧城下町中の柳町商店街に、2014年にオープンした一風変わったコーヒーショップがあります。店の名は「K COFFEE」。店舗は、使われなくなったガソリンスタンドを活用しています。看板が出ていないと、コーヒーを売っているとは思わないさりげない店構えです。にもか

かわらず、こだわりの自家焙煎コーヒーと店主の森 和也さんのオープンな人柄が吸引力となり、地域のシンボリックな場所として親しまれています。

森さんは、コーヒーに興味を持ち、自分の店を持ちたいという思いから、コーヒー教室に通ったりカフェで働いたりして勉強し、まずは商店街の一角で日曜限定のカフェからスタートしました。その後、地元の特定非営利活動法人「くらす」(本誌VOL505表紙)からの紹介からガソリンスタンドのオーナーと出会い開業に至りました。

それから6年。今もコーヒーの研究に余念がありません。日本スペシャルティコーヒー協会主催のジャパンコーヒーロースティングチャンピオンシップ(JCRC)2017年優勝者で世界大会2位となった仲村氏(沖縄県)らとの勉強会を継続的に開催しています。同じコーヒー豆をメンバーがそれぞれのやり方で焙煎し、勉強会で飲み比べを行って、お互いの技術を高めあっています。店舗の中に鎮座する焙煎機も、世界大会で使われているのと同じ機械とのことで、豆と焙煎へのこだわりが半端ではありません。

そのこだわりのコーヒー豆は、口コミで広がりを見せ、さまざまなイベントからも出店依頼が舞い込んでいます。大和郡山市のふるさと納税の返礼品としても人気があり、2020年からは自動販売機も店頭設置し、いつでもK COFFEEの商品を買えるようになりました。経営者として、販路拡大のチャレンジにも積極的に取り組んでいます。

「3年くらい前にテレビで地域が話題になったころには、近隣で出店したいとたくさん相談を受けたんだけどね。」と森さん。既存の建物の利用がもっと簡単にできる仕組みがあれば、K COFFEEのような新しい店や楽しい店主が集まり、もっといろんな人が集まってくる。森さんの話からは、そんな大和郡山の旧城下町地域の再発展が想像できます。歴史的建造物の利活用もそのようなストーリーからはじまるのかもしれませんが。(記・情報広報委員会 折目貴司)

■ K COFFEE ホームページ <https://kcoffee.jp/> (コーヒー豆の注文できます)

■ K COFFEE Facebook <https://www.facebook.com/K.coffee7>



令和2年 新年大交歓会

主催：一般社団法人 奈良建築士会

令和2年1月24日(金)ホテルリガーレ春日野において、令和2年新年大交歓会を開催いたしました。会員をはじめ行政関係者、建築関係団体、参与会、賛助会員様が参加されました。

米村会長の挨拶では、昨年は近畿建築祭の奈良県開催、空き家対策部会による市町村との協定締結、歴史的建造物委員会の設置などを行った。今年もより進めていきたいとの挨拶がありました。



続いて来賓の奈良市長仲川げん様より観光・文化財の建築物が多い奈良市において建築士の役割が求められるとの祝辞をいただきました。

次に来賓の奈良県まちづくり推進局の増田哲司局長様より、建築基準法、建築士法、省エネ法の改正があるなか、建築士会に期待するとの祝辞をいただきました。

また、昨年、当会監事の松塚幾善様が春の、元理事の中上博功様が秋の叙勲で旭日双光章を受章、元副会長の中本明様が国土交通大臣表彰を受賞、的場清様と出野光男様が連合会長表彰を受賞されたことの紹介があり、ご出席されていた松塚幾善様から人生100年時代でこれからも建築士会等を良くしていきたいとの受章の挨拶がありました。

祝宴は、奈良県建築士事務所協会の福本保治会長の乾杯御発声で歓談が始まりました。

なお、途中でブースコーナーにて展示いただいている賛助会員様及びご参加いただいた賛助会員様に壇上にお上がりいただき挨拶をいただきました。

中締めとして立辻副会長に挨拶をいただき、三・三・七拍子によりお開きといたしました。

参加賛助会員

アイカ工業(株)
クマリフト(株)
(株)総合資格奈良支店
パナソニック(株)ライフソリューションズ社
福井コンピューターアーキテクト(株)
(株)フジテツ
不二熱学工業(株)
YKK AP(株)

(記・総務・企画委員会委員 高安秀和)

令和元年度臨時総会で会費の値上げが承認されました

令和2年1月24日(金)に(一社)奈良県建築士会の臨時総会を開催いたしました。議案は、一般社団法人奈良県建築士会定款運営規則の一部の改正についてで、正会員の会費が現行年額13,800円を、令和2年度から18,600円に改正するものです。いままで財務・組織等検討会や理事会による議論を踏まえ、会員の皆様に支部説明会や機関誌等により会費の値上げについて説明し意見等を聴収してまいりました。それらの経緯の説明後、意見を求めたところ、近畿各建築士会の会員の推移、事務局体制、会費値上げ後の運営の進め方、納入方法の検討などがありました。これについて、役員、事務局から回答をしました。その後、採決を取り承認されました。

今後、会員皆様の協力を得て、建築士会の運営をよりいっそう適切に行い、財政が健全化するように役員、事務局一同進めてまいります。会員の減少をくい止め、各委員会や支部における活動については、その内容を精査し費用対

効果を検討します。また、行政や各種団体からの助成金の獲得や企業からの協賛を増やしたいと思います。そのためには、本会が一般市民に存在を認知して頂くことが大切だと思います。

(記・(一社)奈良県建築士会 会長 米村博昭)



「令和元年度 建築士試験 合格祝賀見学会」を開催しました

青年委員会

令和2年2月2日（日）今井町にて「令和元年度 建築士試験 合格祝賀見学会」を開催しました。

この事業は、建築士試験の合格者を対象に、建築士会の活動を周知し、興味を持ってもらうことで入会を促すことを目的としています。

見学会当日は、奈良県建築士会会長の米村会長にお越し頂き、見学会道中の今井町のまちなみについて解説して頂きました。施設見学の移動中にも勉強することが出来ました。



施設見学として恒岡醤油醸造本店と今西家住宅を見学しました。

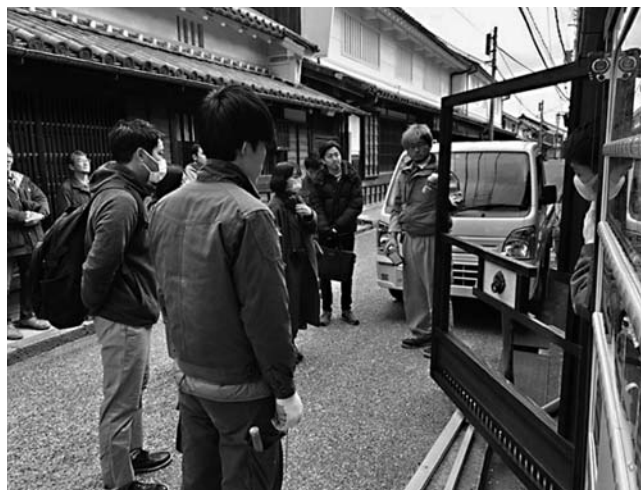
恒岡醤油醸造本店では、店主の恒岡様に醤油蔵の案内および、建物や今井町の歴史、醤油についてお話して頂きました。敷地内の建物で一番古いものは、江戸時代頃のものであると聞き、歴史の深い町ということを実感しました。また、醤油蔵では桶に入っている生醤油や醤油の搾り粕の味見をさせて頂きました。



今西家住宅では、公益財団法人 十市県主今西家保存会の方に解説して頂きました。もともとは裁判所のような使われ方をしていたことや、重要文化財になるまでの経緯や建物の保存状態、今西姓を名乗った理由など、初めて知ることが多くありました。



今年度は青年委員会の今井町の自販機修景プロジェクトと同日開催とし建築士会の活動を実際に見てもらう機会も設けました。



今回、参加された合格者の方々に合格祝賀見学会に満足して頂き、参加者全員に奈良県建築士会に入会して頂く事が出来ました。

また、スタッフとして参加することで自分自身の勉強にもなったと感じております。

（記・青年委員会 永友 翔）

建築賞／天川の山荘

教育事業委員会

以前、天川の山荘をJIAの住宅部会の会員が40名ほどバスを仕立て見学に来てくれたことがあった。その時に参加して下さった京都の吉村篤一さんと私は、バス組の集合が大阪だったこともあり、私が吉村さんを近鉄郡山駅に迎えに行き、そのまま車で大和郡山市内にある1軒目の見学地へ向かい、バス組と合流した。それはJIAの環境建築賞の最優秀賞を受賞した小さな住宅だ。そこから次の天川村までは3時間の長旅になる。24号線を南下し、橿原市内を抜け、吉野口から奈良の山間部に入っていく。下市口を超えろといよいよ大峰山系の山々がそびえる修験道の天川村へとたどり着く。

この作品を見て下さった吉村さんが、奈良の景観デザイン賞に応募したらどうかと薦めて下さった。勿論審査委員はすでに辞めておられた時期だったが、奈良県の景観賞は、伝統的な瓦屋根の街並みに沿ったデザインのものばかりが選ばれると思っていたからこのような建物も奈良の景観賞を考える上で一石を投じる事となるのではないかと考えて下さり、応募する気になった。

この作品は、鮎釣が趣味の医師夫妻の釣小屋として依頼された。敷地は天川百景に選ばれた原生林が向こう岸にあり、高低差18m、その下には見たこともない美しい水の流れる天ノ川がゆうゆうと流れ、大岩が点在する川には鮎が泳いでいる姿が上からでもはっきり見える釣人としては垂涎のロケーションであった。

〈景観との調和〉

施主の強い要望の中に、車2台と敷地道路側に確保したいということであった。

当然車が必要な状況ではあるが、そもそもこの土地にほとんど平地がないし、18m下の川に続く斜面の道路に面するところは5m×5m程度が平地で残りは川までが急な崖の敷地であった。一般的に考えるとそこに2台分の車のスペースにして上に居住部を作るのが簡単でいいが、道路から見た時にそれらが美しい対岸の景色を隠してしまうし、そこから川も見えなくなってしまって、景観の破壊以外何ものでもないと考えた。ここに瓦葺の住宅を建てるのは全く馬鹿げたことに思えた。ずいぶん考えたが天ノ川に続く崖は、岩が露出しており、近くの建物も岩の上に建っているものがあつた。そこで岩を削ってそこにコンクリートチューブを埋め込んだような構造で、崖の上にオーバーハン

グさせ柱などで支えるこのとない構造を思いついた。カウンターウェイトを道路側に十分取り、バランスを取った。高さをちょうど道路高さに合わせた建物の上部をカーブスとし、屋上を緑化して道路からはほとんど見えない建築となった。天川百景の向こうの岩山が静かに緑をたたえている姿はそのままに、この崖の中に溶け込んでしまっている。

そしてカウンターウェイトで支えられたオーバーハング部分は、住まう人が何ものにも邪魔されず清流と緑の直中に浮遊しているような感覚になる。

この建物は、天の川の川べりの崖との接点を最小限にしたもので、この崖の景観を擁壁や柱で壊したくなかったのだ。崖から大胆に突き出ている建物に多くの人々は最初少しぎょっとし驚いたような顔をするが、この場所に建つ釣用のキャビンとしてはなかなか面白いものが出来たと思っている。

奈良県の景観と言っても奈良町のような古い建物と新しい建物がすでに混在しているところ、今井町のように元の姿に変えようとしている小さな町、急斜面の山間部に建つ吉野建の家々と様々だが、この天川村は美しい清流と大峰山系に連なる美しい山々がある。

理屈っぽい説明の必要がないシンプルでダイナミック、かつ景観に調和した建物をつくりたかったのだ。



【建築賞】

作品名：天川の山荘
施主：中山 雅博
設計者：関谷 昌人
施工者：ハンワコーポレーション

【参加レポート】奈良県で初開催の「第1回リノベーションスクール@大和郡山」

2020年1月31日(金)～2月2日(日) 大和郡山市中央公民館 3階小ホール

縁があり奈良県で初めて開催された『第1回リノベーションスクール@大和郡山』へ参加することができました。リノベーションスクールは、2011年から全国の様々な都市・地域において実践され、2019年現在で、取り組み始めた都市地域は全国50都市以上にのぼり、多くの事業化実績を上げている活動です。私ども奈良県建築士会も参考にすべき点があると考え、その概要を共有します。

◇主催：大和郡山市都市計画課

◇企画／運営：株式会社リノベリング

■リノベーションスクールとは？

一言で言えば、「リノベーションを通じた都市再生手法を学び、体験する場」ですが、ホームページには、北九州市でスタートしたときからの趣旨の説明があります。

「2011年8月から半年に1度のペースで北九州市で開催されてきたリノベーションを通じた都市再生手法を学び、体験する場です。……リノベーションスクールの受講者は、市街地の実際の空き物件（遊休不動産）を対象に、全国から集まった参加者たちが「ユニット」とよばれる10人程度のチームを組んで、まちの未来を考えます。……最終日に遊休不動産のオーナーに提案し、スクール後にその提案をもとに実事業化を目指します。実案件化を担うのは、現代の家守としてエリアのプロデュースやマネジメントを担う、完全民間型のまちづくり会社です。単体の建物の再生を超えて、どうすればその建物の建っているエリアの価値を上げ、地域を生まれ変わらせる事ができるのかを真摯に向かい、豊かな未来を築いていこうとする有志が集う場。それが『リノベーションスクール』です。」

(出典：http://renovaring.com/step2/)

■リノベーションスクールの仕組み

右図に示すような仕組みで運営され、最終日にプレゼンテーションを行いました。今回の大和郡山では、3つのユニットが組成され、3日間のプログラムで、以下の要領で開催されました。スクールマスター（校長先生）は、都市計画家の加藤 寛之氏（サルトコラボレイティング）が務められました。

- ① スクールのコアカリキュラムとなるユニットワークは1ユニット1案件を担当する。ユニットマスターはファシリテーターの役割。
- ② 各ユニットワークの段階に応じて必要な知識や技術を学ぶレクチャーを開催。
- ③ 最終日に物件オーナーにむけた公開プレゼンテーションを行う。

■実際の遊休物件の事業化にチャレンジ

リノベーションスクールの特長は、実践的な教育の場であり、実現事例が多いことです。不動産オーナーから実際の空き物件を題材として提供してもらい、これをリノベーションする事業提案を集めた多種多様な受講生が3日間缶詰で検討して、不動産オーナーに提案するというプロセスを通じて一体感のあるチームが形成されます。

今回のスクールでは、大和郡山城下町の3つの案件（「元化粧店の浅田商店」「矢田町通の元花屋跡」「豆腐町の民家」）を題材に提案が作成され、最終日に不動産オーナーへのプレゼンテーションを実施することができました。

街の歴史である建物の利活用を民間の力で事業化していくことが期待できる活動であり、これからが本番です。

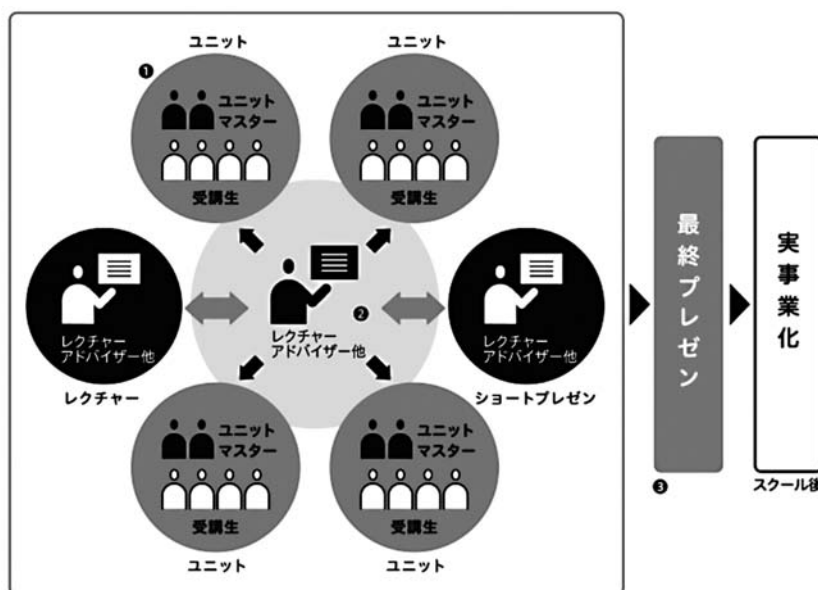
(記・郡山支部 折目貴司)



(ユニットでの作業風景)



(最終プレゼンの様子)



(出典：http://renovaring.com/step2/)

公共建築の木造化への取り組み

—住宅サイズの流通地域木材を使って公共建築を建てよう—

【現状の課題】

低層の公共建築は、木造で造ることが義務化されています。しかし、良質な吉野杉・桧の産地でありながら県内の公共建築物は、木質化ほど木造化は進んでいないと思われます。その要因は、コストが合わない、納期・工期・材料調達が読めない、県地域認証材とJAS材の認識、設計者や施工者の経験不足による誤解など、不安要素が多くあるからではないでしょうか。また、木材業界と建築業界のネットワークができていたとは言えず、結果大手商社に依存した中大断面集成材建造物が多いと思われる。集成材を否定するのではなく、せっかく地域で育った木を使っても、加工するために県外へ往復運搬し、県外から職人をよんで組み立てるようでは、運搬移動コストが掛かるばかりか地球環境にも反します。

【必要性】

地元の大工さんが、地元の木を多く使って公共建築を建てる（推奨事例；写1）ことで、森林・木材及び建設等を含む地域の活性化にとどまらず、技術を継承し、植林を循環させ、山を守り、土砂災害の無い安全で好循環なまちづくりのサイクルを回すことができます。そこで、地域に関わる建築士や施工技術者は、一般流通材を使った木造技術のノウハウを構築し、地域認証材・JAS材・それ材以外の材の使い方を発注者と共に正しく理解し、JAS認定工場の有無だけでなく、使い先まで判って提供できる木材業者と連携する必要があるのではないのでしょうか。

【具体的な取り組み】

このような状況下、奈良の木利用推進協議会（事務局：奈良県奈良の木ブランド課）と一般社団法人木を活かす建築推進協議会の主催により、県産材を使った公共建築の木造化を推進するため、「地域における民間部門主導の木造公共建築物等整備推進事業」に取り組むことになり、建築士会・建築士事務所協会・木材関係団体・行政等に参加の呼びかけがありました。そこで、興味がある又は経験がある設計者・現場監督・大工さん・製材屋さん・各市町村担当者等約30名が参加し、桜井木材会館（あるぼーる）にて、下記の通り、3回の講演とワークショップ（WS）テーマ「奈良県産材を使用した木造公共建築物等を設計・県内で施工する上での課題」が開催され、多様な立場から現状の課題や今後の方向性について意見交換されました。



写1：明日香庭球場クラブハウス
（流通木材による公共建築事例）



多様な立場から意見交換（WS状況）

● 1回目WS：2019年11月12日（火） 13：30～17：00

講演内容 1～3

1. 「木造化木質化へ向けた20の支援ツールの紹介」
講師：環デザイン舎 北瀬幹哉氏
2. 「地域材でつくる中大規模木造建築設計について」
講師：アルセッド建築研究所 大倉靖彦氏
3. 「屋久島・新庁舎の木造設計について」
講師：アルセッド建築研究所 武田光史氏

● 2回目WS：2019年12月19日（木） 13：30～17：00

講演内容 1～2

1. 「県内事例紹介 十津川第二小学校」
講師：奈良県奈良の木ブランド課の堀氏より
2. 「埼玉県杉戸町における木造公共建築の取り組み」
講師：埼玉県杉戸町役場 建設課 渡辺景己氏

● 3回目WS：2020年1月16日（木） 13：30～17：00

講演内容：「熊本県における流通ネットワークの仕組みとそれを活用した中大規模建築のつくり方」

講師：㈱ウディファーム坂田雅孝氏

以上、WSの結果で出された意見、講師への質疑と回答、紹介された工夫等（右表参照）を県事務局でまとめ、次年度以降の奈良県産材利用活用推進の方針や取り組みに繋げていくことになりました。参加させていただいた感想は、「今後、建築士の中から木構造を含む木材に精通した木造建築コーディネーターの育成が必要である」と思う次第です。

（記・中尾七隆（情報広報担当副会長））

講師より紹介された工夫等（一部紹介）

長さ4m以下、幅120mm、梁背断面400mm以下であれば
プレカット費は大断面加工費の1/3～1/4でおさまる

集成材は6m以下、梁背450mm以下が安価

JAS材とJAS材でないでは3000円/㎡以上違う
JAS材を前提としつつ是非を上手く使い分ける

900モジュールだけでなくメーターモジュールでも
住宅用サッシ可能でやや広くできる

1000㎡以内に区画すれば木造の構造体現しが可能

上記防火区画を防火壁とする場合は、自立が必要で
基礎にコストがかかる場合があるため要注意

木造にする意義と注意点（行政担当者の経験より）
⇒住民から高額すぎると思われる配慮・説明必要
⇒環境や健康を前面に出す
⇒地域への還元率が高い（大工・製材所等）

木造の耐久性は、水分と湿気対策次第
⇒極力外部に木材現しで使わない
⇒庇を深くする（施工面積に入れた㎡単価で説明必要）

6mを超える空間の対応
⇒平面トラス（キングホストラス等）、登りばり、
方杖、重ね梁（審査機関が慣れていない）
⇒立体トラス（住宅用のプレカット工場ではできない。
大工の手間がかかり技量も必要）

まちづくり最前線レポート

令和2年1月28日(火)近畿地方整備局にて午前中、勉強会と題し令和2年度予算案について(コンパクトシティ形成に関わる主要なもの)の説明等があり、午後は、国・UR都市機構・MINTO機構からの支援策について情報提供と概要説明がありました。その後、佐賀県出身の㈱ワークヴィジョンズ西村浩氏が講師となり、佐賀市の街なか再生の取り組みについて紹介され、次に近畿管内の7市から公民連携による公共空間活用プランの提案が発表されました。

以上の中から、歩いて1km圏内のリノベーションを対象とし、住んでいるところを良くしていくことを目的とした「まちなかウォークアブル推進事業」と今回の講師を務めた西村浩氏のコメントから「公民連携のポイント」をご紹介します。

●まちなかウォークアブル推進事業

都市再生整備計画事業等において、車中心から人中心の空間に転換するまちなかの歩ける範囲の区域における、街路・公園・広場等の既存ストックの修復・利活用を重点的・一体的に支援する事業です。詳しくは<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001321295.pdf>をご覧ください。奈良県内では、今のところ、奈良市・大和郡山市・宇陀市・田原本町・上牧町が参加

表明されています。その中で、特に民間が活用できそうな部分は「沿道施設の1階部分をリノベーションや修景整備し、市民に開かれた民間による公共空間の提供」だと思われます。

●公民連携のポイント(講師:西村浩氏)より

各行政担当の提案発表者に対し、禁句用語「イベント・集客数・地域活性化」が示されました。その狙いは、イベントをする目的は、一過性ではなく、議会向けの集客数でもなく、何となくのエリアでも無い、明確なエリアと対象者に対し、目標(固定資産税増)に向かって計画されようとしているかを試されていました。

次に、コメント中のキーワードは下記のとおりです。

- まずは妄想し、制度は国交省に相談した方が早い
- スモールエリア(半径徒歩5分圏内)を楽しく
- コワーキングスペースをつくり成長させ、空き店舗を埋めていく(運営者と出資者が共に責任を負う)
- イベントは社会実験をすることで共感を得ること
- 稼ぐ公共空間をつくる⇒公共空間で仕事をする
- 今から子どもたちを育てておく(将来のプレイヤー)

(記・中尾七隆(都市再生推進法人桜井まちづくり㈱))

編集後記

東日本大震災直後に広島から大阪へ転勤になり、再び奈良での士会活動を開始しました。しかし、その8年後、福岡への転勤を命ぜられ、間もなく1年が経ちますが、委員らしいことは何もできなかったと感じております。

「福岡」という地名は、黒田家ゆかりの地である備前国邑久郡福岡(現 岡山県瀬戸内市)に由来するといわれています。九州と本州を結ぶ交通の要衝であり、古くからアジアの玄関口としての役割を担っています。福岡市は全国で5番目の人口を擁する政令市で、特に総人口に対する15~29歳の人口の割合(若者率)は政令市の中で1位(平成27年)です。

建設年代を問わず、此处はユニークな建築の宝庫です。①自然と人々を融合したミュージアムの九州芸文館(設計:隈研吾)、②曲線を基調とする23万㎡超のエンターテインメント施設(巨大複合商業施設)であるキャナルシティ博多(設計:ジョン・A・ジャーディ)、③「古い建物を大切に考える実践」を基本理念とした築61年のリノベーションミュージアム冷泉荘、

④明治時代のフレンチルネッサンスを基調とした木造洋風建築の旧福岡県公会堂貴賓館、⑤近代的なデザインにネオルネッサンス調が加わった旧門司税関(監修:妻木頼黄)、⑥救世慈母大観音像(高さ62m)と平和大仏塔極楽殿(高さ38m)が象徴的な成田山久留米分院、⑦戦国時代の瓦や石を練り込んだ博多練塀(櫛田神社境内)など、この他にも訪れたことのない場所を含めると多々あります。

人口減少が伴う中での建築士の確保、士法改正などの社会情勢の変化など喫緊の課題に対応していなければならない面もありますが、綱領の通り、会員の向上のための建築士会としての存在は変わらないと思います。これからもよろしくお願いします。

(写真・文 生駒支部 水守寛敏)

写真③ リノベーションミュージアム冷泉荘



写真① 九州芸文館
(中庭から見た外観)



写真② キャナルシティ博多



写真④ 旧福岡県公会堂
貴賓館



写真⑤ 旧門司税関



写真⑥ 成田山久留米分院



写真⑦ 博多練塀
(櫛田神社境内)

お知らせ

●おめでとうございます。

令和元年一級建築士試験 合格者 (敬称省略) 28名 (奈良県)

山村 梨絵 井津元奏葉香 玉島 美侑 大川 碧 弓田 瑞貴
井上 玄規 奥野 数磨 奥田 彩佳 太田 麻由 福西正太郎
眞鍋 友香 長井 聡 林 健太 中谷 春香 山中 美咲
杉村奈津保 辻本 悠紀 泉 誠郎 西川 紘子 廣瀬 昇
芥子 円香 山岡 政夫 大庭 直 阪本 佳生 堀 恵未香
森田 理恵 藤岡 太郎 杉浦 桐子

令和元年二級建築士試験 合格者数 49名 (奈良県)

●2019年第10回高校生の「建築甲子園」で、奈良朱雀高等学校が奨励賞受賞
(公社)日本建築士会連合会主催の2019年第10回高校生の「建築甲子園」が「地域のくらし・これからの地区センター」をテーマに開催されました。本県では、県内選考を経て本選に送付された奈良県立奈良朱雀高等学校建築工学科の作品が審査の結果、奨励賞を受賞されました。



●令和2年度通常総会の日程 (予定)

日 時: 令和2年5月21日(木) 17:00頃～ (予定)

場 所: ホテルリガール春日野

議 事: 令和元年度事業報告及び決算承認

令和2年度事業計画及び予算承認

懇親会: 18:40頃～ (予定)

※正会員の皆様は、後日送付いたします通常総会の案内に付いている出欠表を提出いただきますようお願いいたします。なお、残念ながら欠席される場合には、必ず委任状も記載したうえでご返送頂きますようお願いいたします。

●新規賛助会員

会 社 名	郵便番号	住 所	T E L
パナソニック(株) ライフソリューションズ社 近畿住建営業部 住宅市場開発部	540-6211	大阪市中央区城見2-1-61 OBPパナソニックタワー11階	06-6943-5591
アイカ工業(株)	542-0081	大阪市中央区南船場1-13-27	06-6265-6823

●令和2年度一級・二級・木造建築士定期講習についてのお知らせ

【第1期】【第2期】

令和2年度の定期講習は(一社)奈良県建築士会が受付を行います。

【第1期】講習会日時: 令和2年6月11日(木)

場 所: 奈良県産業会館 (大和高田市)

定 員: 80名 (申込先着順)

受付期間: 4月6日～5月28日

【第2期】講習会日時: 令和2年8月26日(水)

場 所: ホテルリガール春日野 (奈良市)

定 員: 60名 (申込先着順)

受付期間: 4月6日～8月7日

※第1期、第2期とも講師による講習を予定しております。

※令和2年度の第3期以降の定期講習は決定次第、会報誌等でお知らせいたします。
※詳しくは TEL 0742-30-3111までお問い合わせください。

●新入会員 (50音順)

氏 名	支部	勤 務 先
泉 誠 郎	生駒	三機テクノサポート(株)
井津元奏葉香	奈良	(株)四門
岩 井 蛍	奈良	
奥野 数磨	奈良	(株)浅沼組
小林 紘子	郡山	輪和建設(株)
瀧上 友司	奈良	瀧上友司建築設計事務所
福西 正太郎	橿原	(株)木庄
堀 恵未香	奈良	奈良県庁
松 田 弘	奈良	村本建設(株)
三 林 愛実	天理	タマホーム(株)
森 口 和 紗	天理	(株)マイ工務店
森 田 理 恵	奈良	(株)乃村工藝社
山 岡 政 夫	橿原	(有)アールアンドピー

3月

18(水) 監理技術者講習
20(月) ●春分の日

4月

23(木) 監理技術者講習
29(水) ●昭和の日

士 會 奈 良

通巻630号

令和2年3月1日(発行隔月1回1日発行)

発 行 所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村 博 昭

編 集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会

印 刷 所 株式会社 明新社

情報・広報委員会

委 員 長 松尾 憲治

副委員長 折目 貴司 大倉 克之

委 員 乾井 哲 福本 保治

水守 寛敏 松田 七彦

洞 尚樹 松村 泰徳

小松原寛俊 森 茂雄

福田 成生 押部 誠

奈良県のストレート合格者のおよそ9割は総合資格学院の当年度受講生!

令和元年度 1級建築士学科・設計製図試験 (設計製図試験 12月19日発表)

奈良県
合格者占有率

No.1

1級建築士試験

奈良県 ストレート合格者占有率

88.9%

奈良県ストレート合格者9名中、当学院当年度受講生8名

令和元年度 1級建築士 設計製図試験 (12月19日発表)

奈良県 合格者占有率

85.7%

奈良県合格者28名中、当学院当年度受講生24名

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※令和元年12月19日に発表された、令和元年10月13日実施会場の1級建築士設計製図試験の試験結果に基づきます。 ※道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公設)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科・製図・ストレート合格者とは、1級建築士学科試験に合格し、同年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 <令和元年12月19日現在>

開講
迫る!!

令和2年度

1級・2級建築士
学科対策講座受講生
募集中!!お申込みは
お早めに!1級・2級 建築士
1級・2級
建築施工管理技士構造設計
1級建築士
1級・2級
土木施工管理技士設備設計
1級建築士
1級・2級
管工事施工管理技士建築設備士
1級・2級
宅地建物取引士インテリア
コーディネーター
賃貸不動産
経営管理士

総合資格学院
学院長 岸 隆司



総合資格 検索 Facebook「総合資格 会」で検索
スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp

奈良校 TEL.0742-30-1511
奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F
近鉄大和西大寺駅北口から徒歩5分